

新しく設置された 博士課程フェロースhip制度について

説明会資料2021/04/12

大学院医工農学総合教育部副部長(風間)

教務企画課大学院支援室

説明会内容

1. 山梨大学融合研究実践ドクターフェローシップ事業
の内容
背景・事業内容・募集要項
2. 山梨大学coの花フェローシップ事業の内容
背景・事業内容・募集要項
3. 学生推薦を考えている教員の皆さんへ

山梨大学融合研究実践ドクター フェローシップ事業の内容

本年度の応募申請締め切り: 4月19日(17:00時)

博士支援に関する政府の動向①

「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」

令和2年1月23日

総合科学技術・イノベーション会議



令和2年1月23日
総合科学技術・イノベーション会議

研究力強化に求められる主な取り組み

博士後期課程学生の処遇の向上

【達成目標】

- **多様な財源を活用し、将来的に希望する博士後期課程学生が生活費相当額程度を受給できるよう、当面、修士課程からの進学者数の約5割※2に相当する学生が受給できることを目指す。(早期達成)**

※ 第6期科学技術基本計画の検討に際し、最新のデータを踏まえて、検討。

※2 全博士後期課程学生(74,367人,2018)の10.4%が受給(2015)。修士課程からの進学者数(約30,000人,2018)の約5割が受給できる場合、全博士後期課程学生の2割程度に相当。

【主な施策】

- ・ **外部資金等の多様な財源による優秀な博士後期課程学生への学内奨学金・RA・特別研究員(DC)・海外研さん機会等の充実を促進(2019年度～)**
- ・ **競争的研究費や共同研究費におけるRA等の適切な給与水準の確保の推進(2020年度～)**
- ・ **国研における博士後期課程学生のRA等の採用を促進(2021年度～)**
- ・ **博士後期課程学生等の挑戦を奨励するための新しい表彰制度の創設(2020年度)**

産業界へのキャリアパス・流動の拡大等

【達成目標】

- **産業界による理工系博士号取得者の採用者数※3を約1,000名(約65%)増加(2025年度)**

※ 施策としては理工系以外も含む。

※3 1,397人(2016)

【主な施策】

- ・ **博士課程学生の長期有給インターンシップの単位化・選択必修化の促進(2021年度～)**
- ・ **国が率先して博士人材の待遇改善を検討(2019年度～)**
- ・ **企業と大学による優秀な若手研究者の発掘(マッチング)の仕組みの創設により、企業での採用等を促進(2020年度～)**
- ・ **大学等が出資する外部組織で共同研究等の実施を可能とする制度改正によって、オープンイノベーションを促進(2020年通常国会等)(再掲)**
- ・ **中小企業技術革新制度(日本版SBIR制度)の改正により、イノベーション創出に向けて取り組むベンチャー等への支援を重点的に推進(2020年通常国会～)**

博士支援に関する政府の動向②



博士を目指す学生の皆さんへ

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大という誰も経験したことのない困難な状況が続いています。感染拡大防止のため、自由に大学を利用できず、思うように研究活動などが出来ない中、博士を目指す学生の皆さんが様々な工夫をしつつ研究に励まれてきたことに心から敬意を表します。

科学技術・イノベーションを担うのは「人」です。特に博士を目指す学生の皆さんは、将来、我が国を牽引する貴重な人材です。しかしながら、皆さんが経済的な面やキャリアパスへの不安から、博士課程への進学を断念する、あるいは研究活動にじっくりと打ち込めないという問題を抱え、新型コロナウイルスの感染拡大がさらに追い打ちをかけているこの状況は、看過できない深刻な問題だと考えています。

欧米では、博士課程学生の研究に支障の無いよう奨学金等が支援されています。我が国でも、世界レベルの研究基盤を構築する大学ファンドに先駆ける形で、博士を目指す皆さんへの経済的支援を拡大します。具体的には、自由で挑戦的・融合的な研究を推進する大学への支援等を通じて、より多くの博士課程学生の方々に、研究費や生活費相当額を支給することを予定しています。

これらの取組を通じて、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」の目標値である約15,000人への支援の達成を目指します。また、高等教育、科学技術及び産業政策の全体を見渡して、RA（リサーチ・アシスタント）支援の促進など総合的な施策を講ずることにより、大学院生への一貫した切れ目のない支援をしっかりと行います。

ぜひともじっくりと腰を据えて、思う存分研究に打ち込んでください。

これから我が国を背負って立つ皆さんが、経済的な不安を抱えず安心して博士課程へ進学できるよう、これまで以上に強力に博士課程の学生の皆さんを支えてまいります。そして、イノベーションの創出に向けて、博士が大きく活躍できる社会の実現に向けて最大限取り組んでいきます。

令和2年12月15日
文部科学大臣 萩生田 光一

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00418.html



[内閣府ホーム](#) > [内閣府の政策](#) > [科学技術・イノベーション](#) > [新着情報一覧](#) > [日本の未来を担う研究者の皆さまへ](#)

日本の未来を担う研究者の皆さまへ

今、日本は、激動の転換期にいます。これまで経験したことがない新型コロナウイルス感染症の拡大やそれに伴うデジタル化などの生活の変化に加え、界に目を転じると米中をはじめとした国家間の覇権争いの激化や気候変動などの地球規模の課題に直面しています。

このような中、日本が社会変革を先導し、持続的に成長していくためには、新しい知に基づく価値を次々に産み出していくことが不可欠であり、研究のとりわけ若い方が、既成概念を打ち破り、自らの自由な発想に基づき、腰を据えて研究に没頭する環境を作ることが何よりも重要です。

しかしながら、博士課程学生や若手研究者を取り巻く環境は厳しく、特に、優秀な学生が、経済的側面やキャリアパスへの不安などの理由から博士課程への進学を断念する状況は、大変深刻です。

こうした状況を打破し、大学の研究環境を抜本的に強化するため、政府は、
●学術研究・基礎研究の分野に、これまでにない手法により「人材」、「研究開発を行う大学の共用施設やデータ連携基盤の整備」などへの大胆な投資を行うために、10兆円規模の大学ファンドを創設すること
●大学ファンドによる支援に先駆ける形で15,000人規模の博士学生への経済支援を実現するための支援を行うことを決定しました。

加えて、競争的研究費の各種事務手続きの簡素化・デジタル化など事務負担を軽減させる取組を本年度内に推進し、来年度以降に実施する事業から取り除くようにすることで、研究者の皆さまの研究時間をより多く確保いたします。

これらの取組を通じて、より多くの学生が博士課程への進学に挑戦するとともに、若手研究者が腰を据えて自由な発想に基づく研究に打ち込むことができる環境の構築に向け、引き続き尽力してまいります。

日本の科学技術・イノベーションの源は、若手を含む研究者の皆さまです。新たな知を産み出す研究者の活躍がなければ日本の未来はありません。未だ若手皆さまが、研究の道に飛び込み、存分に研究活動を行っていただくことを願って止みません。

令和2年12月1日
内閣府特命担当大臣（科学技術政策） 井上 雄

<https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20201215.htm>

科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業

令和3年度予算額(案) 2,316百万円
(新規)



令和2年度第3次補正予算額(案) 480百万円※
(※) 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設準備事業として計上

背景・課題

- 博士後期課程における経済的な不安と研究者としての将来のキャリアパスが不透明であることが相まって、近年、我が国では、博士後期課程に進学する学生が減少傾向にある。また、博士号取得者数も、主要国の中で我が国は唯一減少傾向にある。さらに、社会や企業の期待と博士課程教育との間のギャップ（人材ニーズの乖離）が存在するとの指摘もある。
- 博士人材は、知識集約型社会への転換が加速している我が国の発展を担うべき存在であるが、優秀な学生が研究の世界に失望し、研究者を志望しないとの厳しい指摘も多く、我が国の将来の科学技術イノベーションの空洞化が強く懸念される。また、新型コロナウイルス感染症の拡大による博士号取得の遅れや研究環境、経済状況の悪化により、上記の状況はさらに深刻化されることが見込まれるところ、この危機的状況を打開するためには、博士課程学生への支援の在り方を根本から変えていく必要があり、大学のシステム改革と連動した対策が急務である。

【統合イノベーション戦略2020（令和2年7月17日 閣議決定） 抜粋】

- 博士後期課程学生の処遇向上に向けて、学内フェローシップと博士課程修了後のキャリアパスの確保を一体として実施する大学への支援策の検討を進める。

事業概要

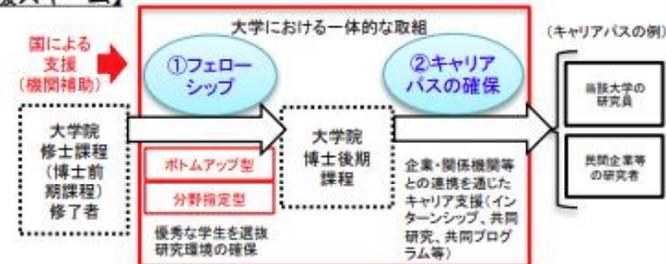
【事業の目的・目標】

- ①博士後期課程学生の処遇向上（生活費相当額（180万円以上）の支援を含むフェローシップ）と、②キャリアパスの確保（博士課程修了後のポストへの接続）を、全学的な戦略の下で、一体として実施する大学への新たな補助金を創設する。
- 価値創造の源泉である基礎研究・学術研究の卓越性と多様性を維持・強化していくため、将来を担う博士人材を戦略的に育成していくことが必要。このため、フェローシップは、各大学が将来のイノベーション創出等を見据えてポトムアップで提案するポトムアップ型と、国がトップダウンで分野を指定する分野指定型の2タイプとする。

【事業概要】

- フェローシップは、以下の2タイプ。
 - ・ポトムアップ型：大学の強みや地域の強み等を生かしたイノベーションの創出等が見込まれる人文・社会科学を含む幅広い分野を大学が提案
 - ・分野指定型：産学を通じて、人材ニーズの高まる分野（情報・AI、量子、マテリアル等）を国が指定
- キャリアパスの確保は、当該大学の研究員ポストや、民間企業等の外部ポストへの接続等が要件。なお、民間企業・関係機関等と連携し、ジョブ型研究インターンシップや共同研究等の人材育成プログラムの活用等を想定。

【支援スキーム】



【支援内容】

- ✓ 支援対象：国公立大学（機関補助）
- ✓ 支援期間：7年間(6年目以降は継続分のみ)
[国立大学の次期中期目標期間と連動]
- ✓ 支援規模：延べ55機関程度、1機関当たり10～25人程度
総支援人数：1,000人/年
- ✓ 補助率：3分の2
[（生活費相当額（180万円～/人）+ 研究費）×2/3]
※事務経費×2/3を別途補助
※準備事業における事務経費については定額補助

アウトプット(活動目標)

【フェローシップの受給者数】	
令和3年度	1,000人
令和4年度	2,000人
令和5年度	3,000人

【フェローシップ設立大学数】	
令和3年度	延べ55大学程度
令和4年度	*
令和5年度	*

【外部機関と連携した大学数】	
令和3年度	15大学
令和4年度	35大学
令和5年度	55大学

アウトカム(成果目標)

- 【初期アウトカム】
 - ・大学における戦略的な博士後期課程学生支援の実施
 - ・研究環境の充実に対する博士後期課程学生の満足度の上昇
- 【中期アウトカム】
 - ・大学から博士後期課程学生への支援の充実（博士後期課程学生支援の多様化）
 - ・進学者の経済的不安等の減少
 - ・博士後期課程進学者の増加
- 【長期アウトカム】
 - ・社会の人材ニーズと博士人材の育成とのギャップが解消し、優秀な博士人材が社会の多様な場で活躍できる環境の実現

インパクト(国民・社会への影響)

産学を通じて、イノベーションの創出に資する博士人材が活躍することで、我が国のイノベーションの創出力を高め、その成果が社会に還元される。

本学が申請した事業名称:

融合研究の推進による社会変革対応型ドクター人材の養成

本学が強みとする、融合研究を進める分野に所属する大学院博士課程の学生を対象とする。これから到来する不安定で先が見えない時代を見据え、独立して研究が行える能力の確保に加えて、個に蓄積された諸学を融合して解決策を創造し、その実現に向けて自由に分野や業種を越境できる勇気と実行力を身に着けた学生の育成を目指す。以下の取り組みにより、彼らの確かなキャリアパスの構築を支援する。

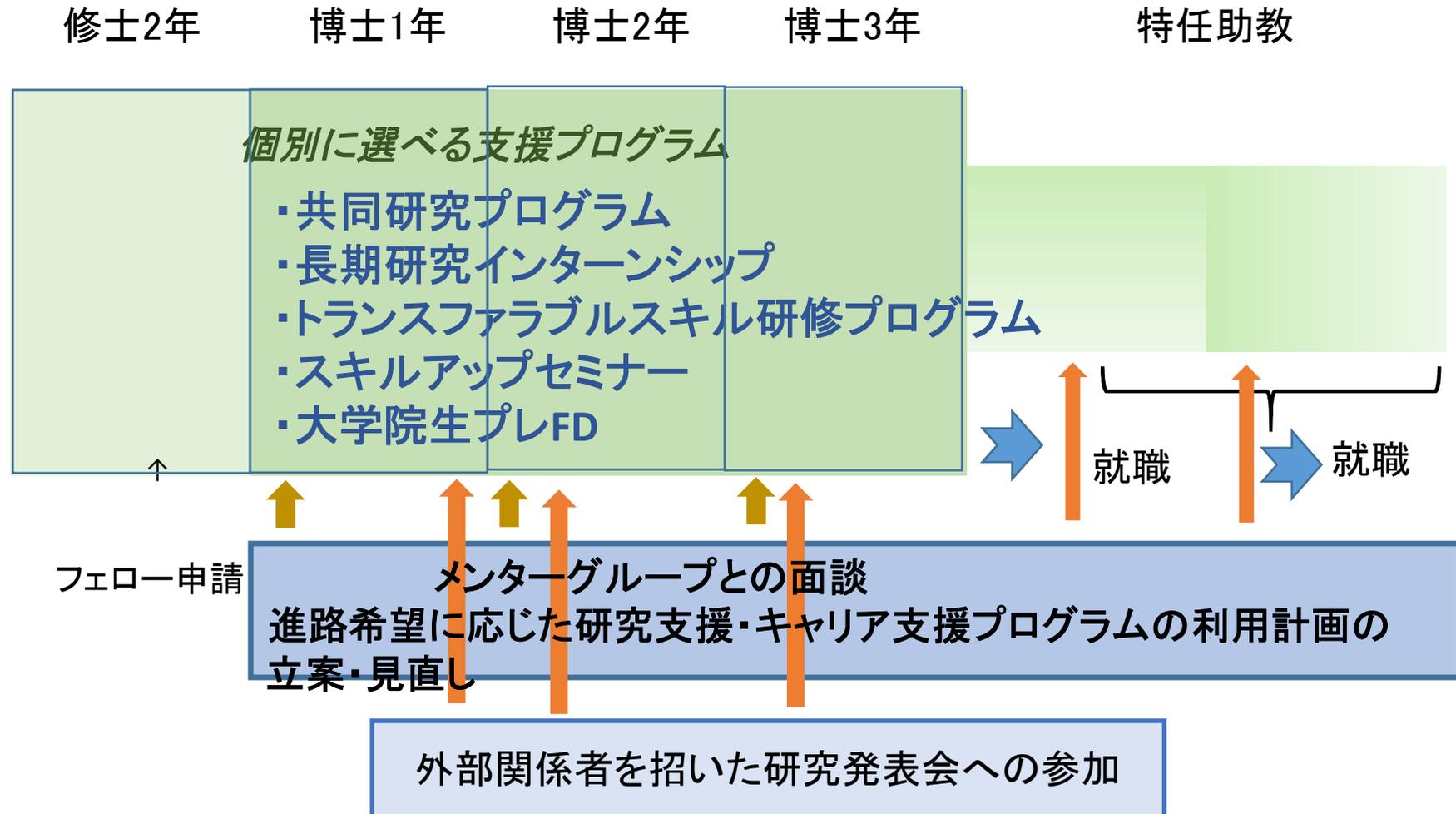
研究力向上・キャリアパス支援に向けた取組:

- ・長期研究インターンシップの実施
- ・学生が参加できる共同研究の整備
- ・トランスファラブルスキル研修プログラムの実施
- ・外部関係者を招いた研究発表会の開催
- ・セミナー開催やネイティブ教員による英語論文作成指導
- ・複数の学内外メンターによる研究指導とキャリアパス支援
- ・大学院生プレFDの実施

キャリアパス確保に向けた取組:

- ・企業を含む連携体制の構築や長期研究インターンシップ先の確保
- ・特任助教ポストの確保

今年度の支援プログラムの詳細はまだ未定 できるだけ早くに情報提供したい
来年度のフェロー申請は今年度中に行う予定



令和3年度 山梨大学融合研究実践ドク
ターフェローシップ募集要項

2. 募集対象

募集対象学生の所属は以下のとおり。

- (1) 発生工学技術開発・実践特別教育プログラム
- (2) 流域環境科学特別教育プログラム
- (3) 先端脳科学特別教育プログラム
- (4) 協応行動科学特別教育プログラム
- (5) 地方創生への貢献が期待できる分野に属する専攻
- (6) 選考審査において特に認めた場合は上記以外の専攻も対象とすることができる。

3. 採用人数

6名

4. 応募申請資格

- (1) 令和3年4月に、本学大学院博士課程の新入学生であるか、博士課程在籍期間が12ヶ月未満であること。（「博士課程入学者」のうち「社会人」として扱われている者は除く）
- (2) 博士課程進学時に30歳未満であること。ただし、出産・育児等ライフイベントを経た者については、個別の事情に応じ、1～2年程度、上記の年齢要件について配慮する。
- (3) 日本学術振興会特別研究員、国費外国人留学生、その他本国からの奨学金等の支援を受ける留学生ではないこと。
- (4) 指導教員の推薦を受けていること。

5. フェローシップ期間
期間は3年間とする。

6. 支援内容

研究生生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究に取り組む機会を提供することにより、将来を担う創造性に富んだ研究者を育成するため、**研究専念支援金及び研究費**を支給する。

- ・研究専念支援金 月額15万円（毎月30日に支給）
- ・研究費 年額20万円

9. 選考

フェローの選考は、山梨大学融合研究実践ドクターフェローシップ選考審査委員会において行う。

プレゼンテーション: パワーポイントを用いたプレゼンと試問
(一人15~20分を予定) 詳細は応募者に後日連絡

10. 選考方法及び審査方針

選考は、申請書及び研究計画書等に関するプレゼンテーションにより、以下の(1)から(4)の審査方針に基づいて行う。

- (1) 学術の将来を担う優れた研究者になることが十分期待できること。
- (2) 自身の研究課題設定に至る経緯が示されており、かつその着想が優れていること。また、研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されていること。
- (3) 研究を遂行する能力が優れていること
- (4) 日本学術振興会特別研究員への申請経験があることも重視する。

11. 選考結果

選考結果は申請者本人及び指導教員に通知する。

12. フェローの義務

制度の趣旨に鑑み、以下の義務を負う。

- (1) 出産・育児に係る中断又は傷病を理由とする中断の場合を除き、研究計画を踏まえた研究活動に専念すること
- (2) 本学が実施する研究力向上等に関するプログラムに参加すること
- (3) 研究活動の状況を定期的に本学に報告すること
- (4) メンターによる面談を定期的に受けること
- (5) 日本学術振興会特別研究員への申請を行うこと

13. 支援の取り消し

以下の事由に該当することとなった場合は、研究専念支援金及び研究費の支給を停止し、返還を求める場合がある。

- (1) 応募申請資格を喪失した場合 (DCに受かったら取り消し)
- (2) 研究計画の遂行状況又は前条の義務の履行状況が不十分と認められる場合
- (3) フェローから辞退の申し出があった場合
- (4) その他学長が支援を取り消すべき事由があると判断した場合

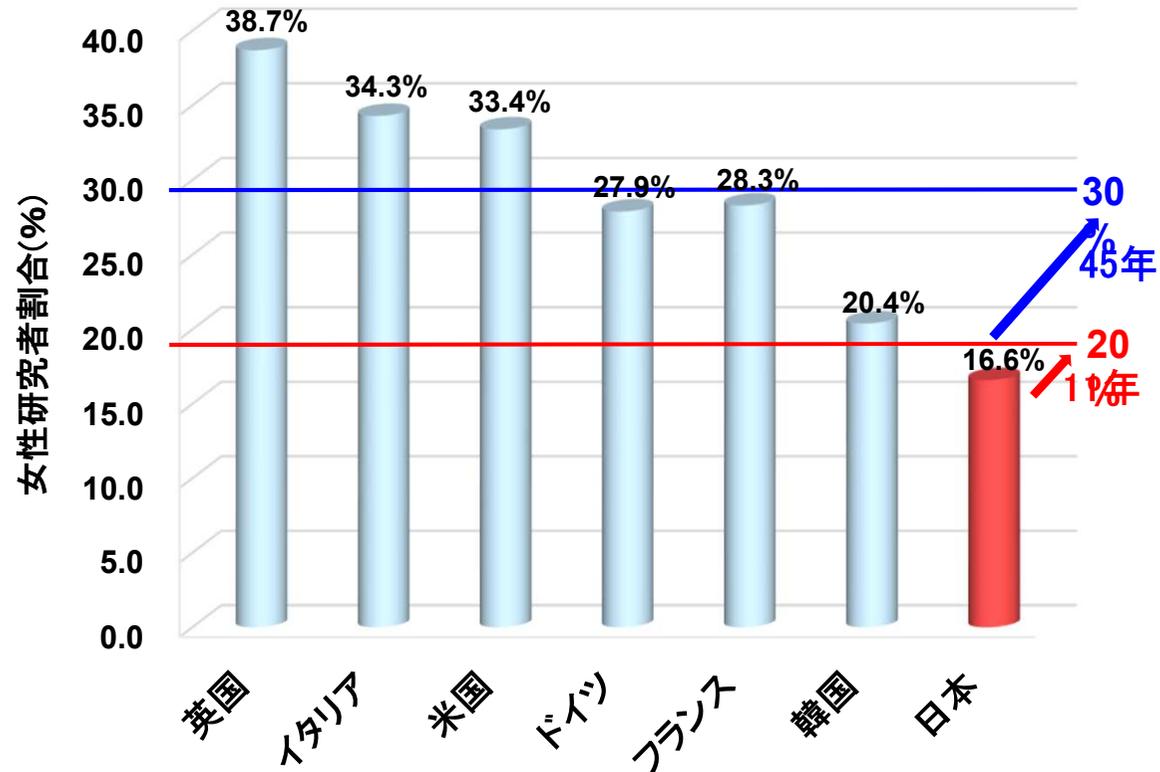
14. キャリアパスについて

- ・フェローが希望する場合は、博士課程修了に引き続き本学特任助教として雇用することがある。
- ・特任助教の雇用期間は2年とし、雇用期間満了前の審査(教員評価の結果等)により、雇用更新又は雇用期間の定めのない職員として採用することがある。

山梨大学Coの花フェローシップ事業の内容

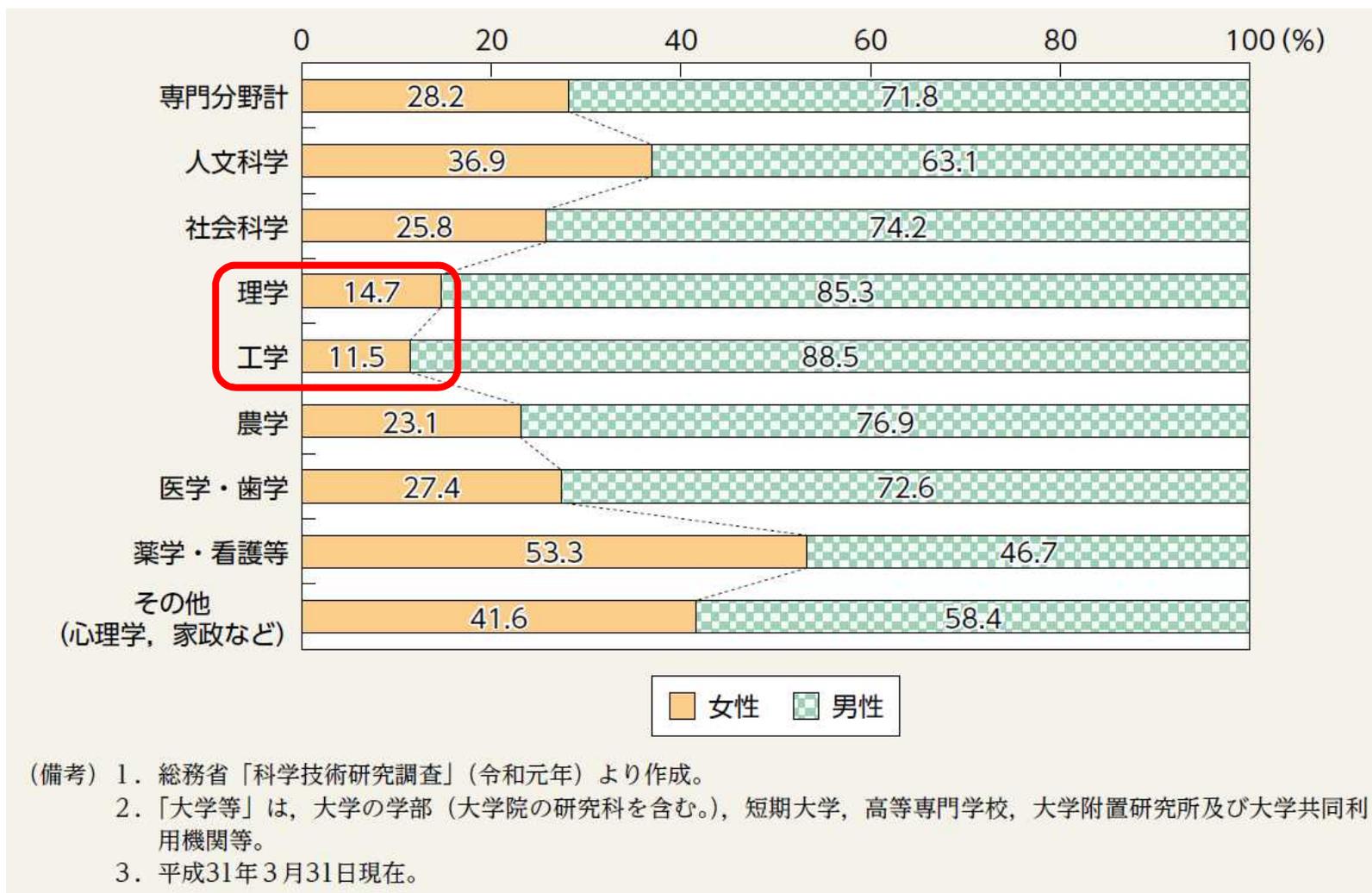
本年度の応募申請締め切り: 4月19日(17:00)

女性研究者割合20%、30%を目指して



(出所) 内閣府男女共同参画局令和2年版男女共同参画白書データをもとにJSTが作成

専門分野別に見た大学等の研究本務者の男女別割合



(出所)内閣府男女共同参画局令和2年版男女共同参画白書より

山梨大学(牽引型)

https://www.jst.go.jp/shincho/josei_shien/

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

共同実施機関:シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく

実施期間:R2年~R7年

【実施体制】

山梨大学が研究代表機関となり、シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばくと連携し、女性の能力を生かしたイノベーティブな研究推進環境の創設による地域活性化のモデル作りに挑戦する。

- ・三機関を有機的に連携させる組織として”Yamanashi Network for Diversity & Innovation”を新たに立ち上げ事業推進を担う。
- ・事業の進展状況と成果を評価する第三者機関を設置し、事業終了後の展開にむけた取り組み体制の基礎とする。

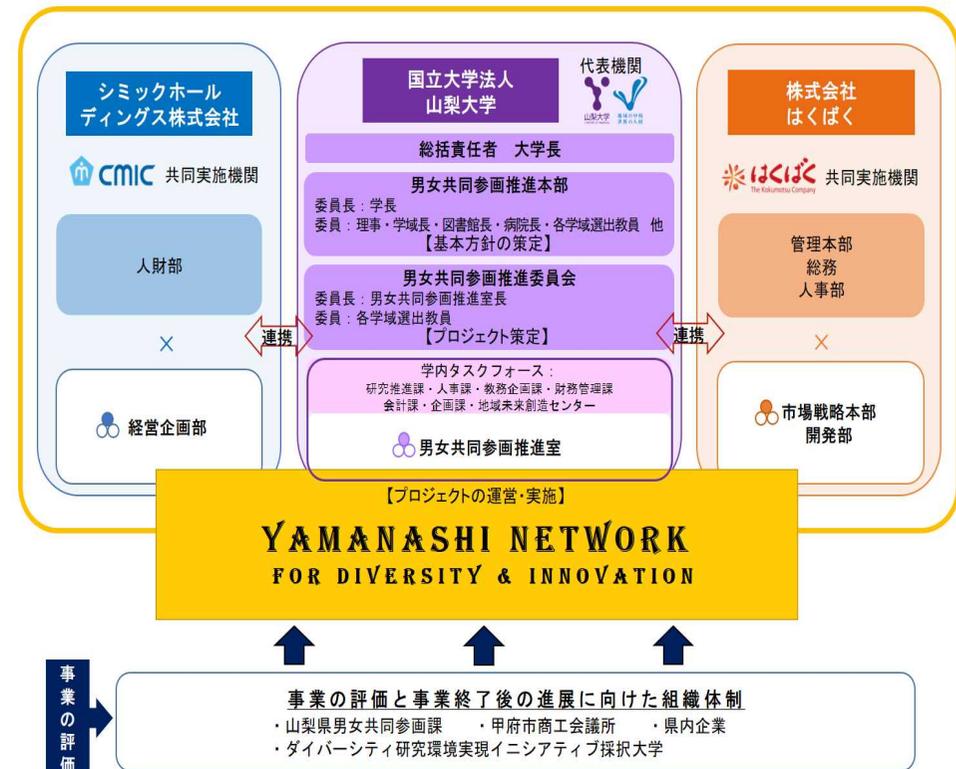
【特長】

1. クロスアポイントメント制度による積極的な女子学生・女性研究者間の交流促進
2. 女性研究者を代表とする地域貢献型共同研究への研究支援と、「アドバイザーグループ」のサポートによる研究の推進・女性研究者の育成
3. 博士課程への女子学生進学を促す各種支援により、若手の女性研究者の育成強化

【山梨大学における女性研究者の研究活動支援に関する取組状

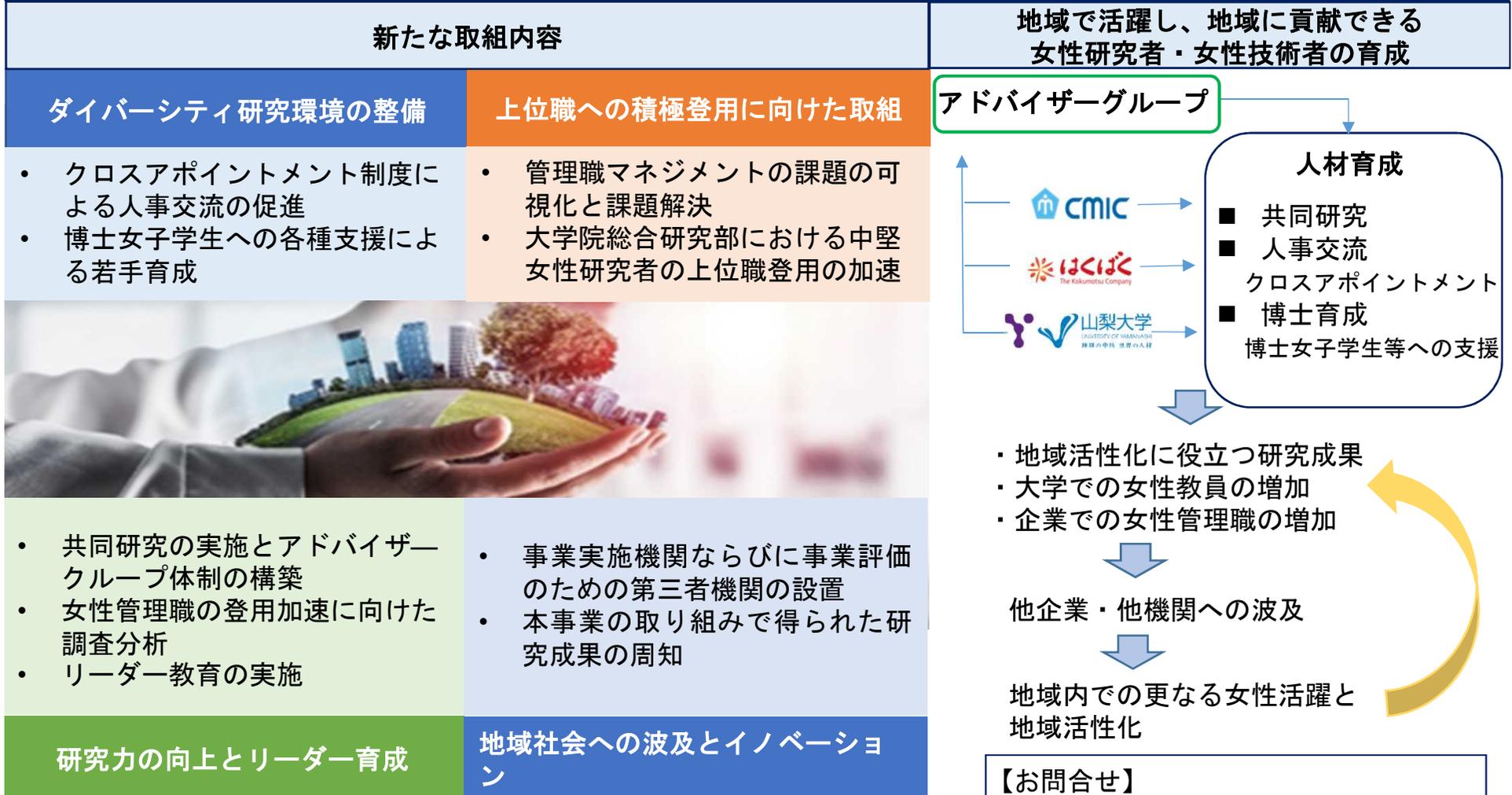
環境整備	意識改革	女性研究者の裾野拡大	ポジティブ・アクション等その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究員支援員配置 ・ 復帰支援 ・ 論文投稿、英文校閲費支援 ・ 育児支援 ・ 山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞の授与 	<ul style="list-style-type: none"> ・ セミナー、講演会 ・ HPIによる情報発信 ・ 配布物による意識醸成 ・ 意識調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員、学生を対象とした交流の場の整備 ・ ロールモデル集の発行 ・ 女子中高生の理系進路選択支援プログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性優先公募 ・ 女性教員採用昇進の推進 ・ 女性のための「ステップアッププログラム」、女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業の実施

【体制の概要】



ダイバーシティが牽引する地域活性化とイノベーション

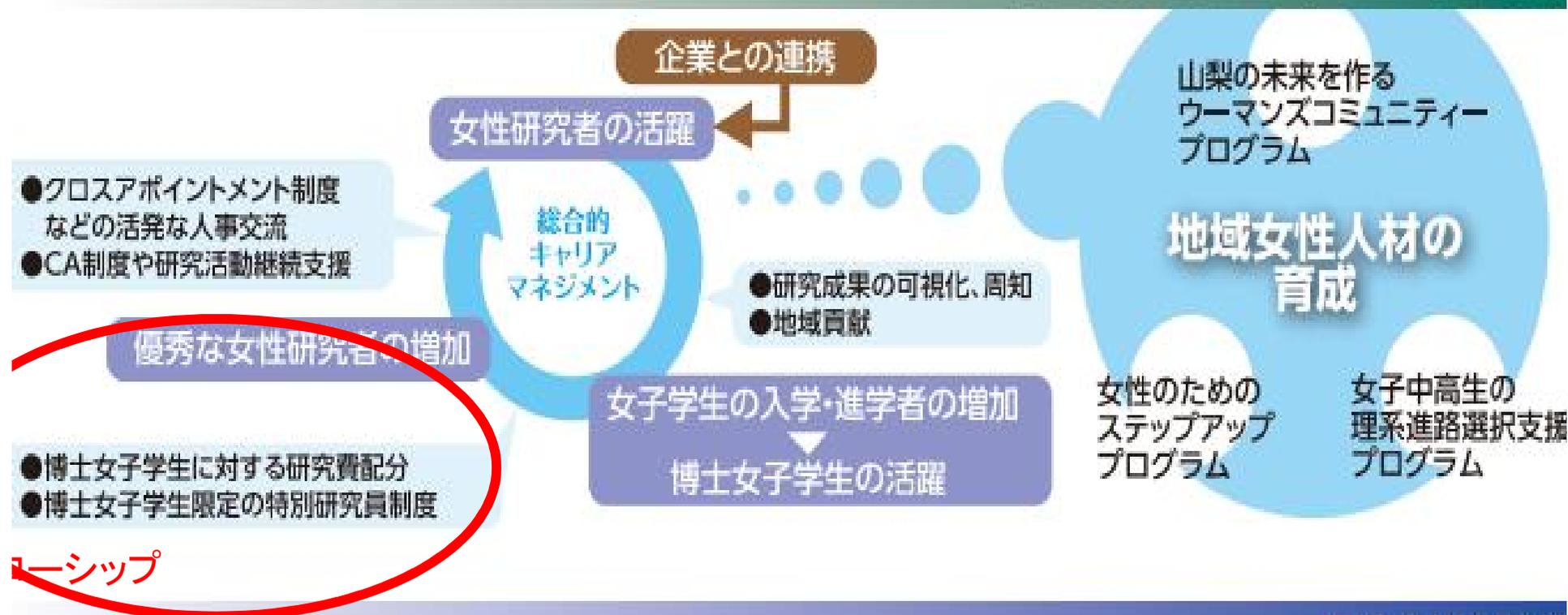
～食・医療・女性のパワーが拓く未来社会 (R2-R7)



女性比率の向上 女性上位職の増加 研究力の向上 地域活性化

【お問合せ】
 機関名：山梨大学男女共同参画推進室
 所在地：山梨県甲府市武田4-4-37
 連絡先：055-220-8350
 HP：<https://danjo.yamanashi.ac.jp/>

総合的キャリアマネジメントの循環



環境支援と整備

ダイバーシティ研究環境整備

- クロスアポイントメント制度による人事交流の促進

女性研究者の研究力向上

令和3年度 Coの花フェローシップ募集要項（融合研究ドクターフェローシップとの相違点）

	融合研究実践ドクターフェローシップ	Coの花フェローシップ
資金源	文科省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設準備事業」	JST「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ」
対象	原則として、本学が強みとする研究分野に関わる大学院特別教育プログラムならびに、地方創生への貢献が期待できる分野に属する専攻の学生とする。	本学の博士課程に在籍する女子学生
申請資格	前年度10月あるいは当該年度4月の入学生	博士課程に在籍する女子学生（学年は問わない）
採用期間	3年	3年以内（支援開始時の学年に応じて、博士課程修了までの）
支援内容	研究専念支援金 月額15万円 （年額180万円） 研究費 年額20万円	研究専念支援金 月額5万円 （年額60万円） 研究費 年額50万円
選考方法・フェローの義務等	基本的に同じ	
キャリアパス	希望すれば本学の特任助教として2年間雇用されることがある （ただしポスト数は今後協議）	
庶務	教務企画課大学院支援室及び大学院教育マネジメント室	

教員の皆さまへ 協力をお願い

融合研究フェローシップについては、

採択通知が来て間がないため、まだ未定の部分があります。

学生にとって良い事業となるよう、情報提供やご意見をお願いします。

特に以下について情報をお願いします。

- ・メンター候補者として適任と思われる人物に関する情報
- ・企業との共同研究への博士学生の参加実態
- ・企業や大学などへの長期インターンシップの実施実態
- ・博士学生の発表会に招きたい外部関係者(企業や組織)

今回学生に用意する事業の中で、フェローシップ採択者以外の学生にも利用を拡大してほしい事業内容

追加情報①

- ・他の奨学金等を受けていることについて、基本的には選考時の採否の判断とはしませんが、プレゼン時に、受けている奨学金等の情報提供をお願いします。
- ・選考されたフェローシップ対象学生は、文部科学省より大学ホームページ等にて公表を求められているので、決定後大学ホームページにて公表します。
- ・選考時のプレゼンについては、英語で行うことを可とする。

追加情報②

- ・配分額が大きい融合研究実践ドクターフェローシップについては選考された場合、研究専念支援金は雑所得として課税対象なり、所得税に関する**確定申告が必要**となります。
- ・研究専念支援金は雑所得として扱われるため、健康保険や扶養手当における扶養の扱いは、扶養義務者（親等）にお伝えいただき、扶養義務者（親等）の職場のご担当者にお問い合わせいただき、対応してください。

ご清聴ありがとうございました。

今回は二つのフェローシップの説明でした。
この二つ以外でも、本学の大学院生支援に関する
要望・質問等がありましたら

教務企画課大学院支援室

あるいは

風間(kfutaba@yamanashi.ac.jp)まで

お寄せください。